

# SAKURA CAMP 2017~2019

## SAKURA CAMP 2017



平成29年6月に本市と柴田町・仙台大学でつくる東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会とベラルーシ体操協会が事前合宿に係る協定を締結し、本市とベラルーシとの交流がスタートしました。同年10月には初めてベラルーシ新体操ナショナルチームが来白し、ホワイトキューブで公開演技会や市内小・中学校で児童・生徒との交流会を実施しました。

## SAKURA CAMP 2018



平成30年には、事前合宿で2度目の来白をしたベラルーシ新体操ナショナルチーム。この年7月に行われた公開演技会では、ベラルーシ新体操ナショナルチームの華麗な演技とともに、ホワイトキューブ新体操教室や仙台大学女子新体操部の選手たちも演技を披露し観衆を魅了しました。

## SAKURA CAMP 2019



SAKURA CAMP2019開催前の4月にはホワイトキューブでベラルーシの文化に触れるコンサートも実施され、本市とベラルーシのさらなる交流が促進されました。令和元年7月に行われた事前合宿でもベラルーシ新体操ナショナルチームの華麗なる個人演技や団体演技が披露され、来場した大勢の観客の前ですばらしい演技を披露しました。

### バブル内部でベラルーシ新体操ナショナルチームに帯同

#### 随行職員インタビュー

東京オリ・パラ推進室

かしお ゆうすけ  
柏尾 祐輔

主事



Q 選手団とともに行動する「バブル方式」の対応中ほどのような業務をしていましたか？

バブル方式とは選手やコーチ、関係者、利用施設を泡で包むように囲い、外部との接触を遮断するものです。私は、そのバブル内外の連絡調整およびチームのアテンドを行いました。事前合宿期間中、チームは宿泊施設と練習会場のみの移動しかできませんでした。そのため、例えばチームから備品などの購入の要望があった場合には、迅速にバブル内の職員がバブル外の職員へ調達の連絡し、対応する機会が多くありました。また、チームが移動する際にはバブル外職員協力の下、一般の方

と接触することがないよう動線確保に努めました。

Q 「バブル方式」に対して選手の受け止めはどうでしたか？

バブル方式により、さまざまな行動制約があり、チームにとっては身体的・精神的に大きな負担になることを懸念していました。しかしながら、チームは既に感染症対策を徹底しており、日々の検温やアルコール消毒、また食事中的黙食などを積極的に取り組んでいたため、チームの全面的な協力があつたからこそ、事前合宿期間中、感染者を一人も出すことなく無事終えることができたと感じています。

Q ベラルーシチームを見てきて感じたことは？

チームの練習へ取り組む姿勢や私たちがの気遣いに感動しました。新型コロナウイルス感染症の

影響から、従来とは異なる対応をチームは求められることとなりましたが、そのことを微塵も感じさせない振る舞いは、世界トップレベルとなる美しく魅力あふれる演技に繋がっているのだと感じました。「限られた環境でベストパフォーマンスを発揮する」姿勢を見習って今後の業務に取り組みたいです。



1\_羽田空港に到着した選手団は専用バスで本市に向かいました 2\_宿泊施設の全面的協力もあり、食事場所についても感染症対策の徹底が図られました 3\_多くの制約があるなかでも選手たちへのおもてなしの気持ちを持って対応しました